

教育実習を終えて

日本語日本文学科 4 回生

堂 元 咲 希

三週間の教育実習は多くの学びと素敵な出会いがあり、私にとって一生の宝物になりました。教育実習の中で学んだことについて、学習指導と生徒指導の二つの面で記していきたいと思います。

まず、学習指導についてです。教育実習の最初の一週間は先生方の授業を見学しました。どの先生方の授業でも感じたことは、しっかりと準備をされて授業に臨まれているということです。私が担当させていただいたクラスの担任の先生の道徳の授業を二回見学した際、板書が今まで見たことのない形で掲示物がすごく見やすかったので、どのように準備されているのか質問しました。すると先生が道徳の授業用に作ったノートを見せて下さりました。そのノートには、生徒にこういった部分に気づかせたいか・そのためにこういったところに注目させるか・これまでの流れが分かりやすくするための板書方法などがびっしりと書かれており、何度も書き直しされていました。

その先生の道徳の授業はすごく分かりやすく、慣れていらっしゃるのかなと思っていたのですが、それはこのような工夫と多くの準備があるからだということを感じました。学び続けることの大切さを感じた場面でした。

実際に私が国語の授業を始めたのは二週目からでした。私は二・三年生の評論の授業を担当しました。今まで模擬授業では評論をしたことがなかったので、担当の先生に毎日アドバイスをいただきました。私が説明をしてそれを生徒が聞くだけの時間ができてしまったり、分かる人だけの授業をしてしまって分からない生徒への配慮が少なかったりと多くの課題があり、それを一つずつ減らしていくことを意識しながら授業をしました。授業の振り返りシートを準備していたのですが「作者の意図や気持ちが分かりました！」と書いてあると嬉しくて、もっと分かりやすい授業にしよう！と頑張ることができました。

生徒指導の面で感じたことは、先生方が生徒のことを細かい部分までよく見られていることです。生徒と廊下ですれ違った際に顔色や話し方を見て「大丈夫？元気？」と声をかけたり、下校指導の際に「さようなら」と言うだけでなく、「この前のテスト頑張ったな～」と声をかけたりしておられました。話しかけられた生徒はパッと表情が明るくなったり、不安なことを話し始めたりしていたので、普段からのコミュニケーションがすごく大切で、こういったことが授業の雰囲気づくりや生徒の健康に関わるということを感じました。

長いようであつという間の三週間でした。実習先の生徒たちは素直で明るく、笑顔を見ると大変なことも忘れることができました。先生方も尊敬できる方ばかりでこんな先生になりたい！と強く思いました。春から、教育実習での経験を活かして教員生活を頑張りたいと思います。

教育実習を終えて

英語英米文学科 4 回生

末 澤 晴 佳

私は今回、母校の中学校で、3 週間の実習をさせていただきました。私が主に実習で学んだことは2つあります。1つ目は、「先生」と呼ばれることの重みです。私たちは実習生ではありますが、初日からいきなり生徒に「先生」と呼ばれました。たとえ実習生でも、生徒からしたら、実習先の先生方と全く同じ先生であることに改めて気づかされ、生徒との距離感に一番苦労しました。しかし、実習が進むにつれて生徒の方から話しかけてくれたり、私自身も運動会などの行事を通して、生徒と仲良くなったりすることができました。生徒は先生のことを本当によく見ており、少しの変化にも気がついてくれます。生活記録に書くコメントの1つでも、何を書けばよいのかたくさん悩みましたが、私が書いたコメントに対しての生徒の嬉しそうな反応や、生徒からの温かい言葉にいつも励まされていました。

2つ目は、英語という言語を教えることの難しさです。今回私は、初めて1人で生徒の前に立ち、授業をすることを経験しました。今まで生徒側だった自分の立場から、先生側になることに大変緊張しており、初めての授業の前日まで練習でもなかなか大きな声を出すことができませんでした。しかし、授業前日に指導の先生に授業をみていただいたとき、先生からかけていただいた言葉がとても印象に残っています。「先生が一生懸命授業をすれば、必ず生徒は応えてくれます。」「私たち英語科は、言語を教える科目です。英語は、発音など、すべての基礎になるものを伝えていかななくてはけません。先生が不安そうに授業をしていると、先生を助けたいと思っている生徒も不安になります。だから、自信をもって大きな声で授業をしてください。」私は、この言葉にはっとさせられました。生徒にとってはたった一度しかない人生の50分をいただくのに、私がその50分をきちんと授業できないでどうするのか、声が小さいと何も伝えることができないと思い、やるしかないとそこで覚悟を決めることができ、伝えるべきことをきちんと伝え、授業をやりきることができたと思います。授業が終わったあと、生徒が私のところに来てくれ、楽しかったですと声をかけてくれました。いつもは手を挙げない生徒が頑張って手を挙げてくれたり、また授業をしてほしいといった温かいメッセージをプリントに書いてくれたりした生徒もいて、キラキラした目でついてきてくれた生徒の皆さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。生徒の優しさに何度も救われた3週間でした。

教育実習は、初めての経験ばかりで、指導の先生方のプロとしてのすごさや、自分の授業の未熟さに気がつくことができた、とても難しく、しかし今思えば楽しかった大変貴重な機会でした。この経験は、私の一生の宝物です。何より、生徒と一緒に楽しそうに授業をされていた先生方の表情を忘れることができません。私も、指導していただいた先生方のように、誰からも信頼され、生徒とともに楽しく授業をすることができる先生になりたいです。

教育実習を終えて

国際教養学科 4 回生

上 山 結 菜

私は 5 月 22 日から 6 月 9 日までの 3 週間、母校の中学校で教育実習をさせていただきました。私は中学生だった時、教育実習の先生が来るのを楽しみにしていたので、その時のことを思い出しました。

教育実習初日、職員室での挨拶、全校集会での挨拶、クラスでの朝会の挨拶と挨拶つづきでとても緊張したことを今でも覚えています。担当教員の先生には「緊張で表情筋が固まってるよ!」と言われました。自分ではニコニコしていたつもりでしたが、ぎこちなかったようです。

私は 1 年 1 組の担当になりました。1 年生は小学校を卒業したばかりの生徒たちだったのでとても元気で活発な子たちでした。私が実際に授業するのは 1 年生だけなのですが、授業観察や部活動で 2・3 年生の生徒たちとも話す機会があったので、たくさんの生徒とコミュニケーションが取れました。私が人とコミュニケーションをとる際に気をつけていることは、その人のパーソナルスペースを邪魔しない、よい距離感で話すことです。いきなり仲良くなれる子もいれば、時間をかけて徐々に心を開いてくれる子もいるので、全員に積極的に話せばよいというわけではないと思います。まずは話しかけてみて、その生徒個人個人の性格などなんとなくわかると思うので、その子の距離感をつかんであげてコミュニケーションをとることをお勧めします。また、生徒たちだけでなく、教職員全員と話せたことは私にとって良い経験になりました。職員室にいるときは、先生方の邪魔にならない程度に話したり、アドバイスをいただいたりしました。話しかけてくれる先生方も多かったので、とてもありがたかったです。

実際に授業が始まった時は緊張もしましたが、同じ実習生と練習したことや担当教員に言われたことを思い出し、やり切ることができました。大学の模擬授業では、時間配分が苦手でオーバーしてしまったり、余らせてしまったりしていたので時間に気をつけました。なので、実習期間では授業の時間配分に困ることは、ほとんどありませんでした。

また、私は英語科だったので他の教科と違って、生徒がアクティビティをしている時間が長かったです。それが良い部分なのですが、そのアクティビティが授業のメインになるので作るのに苦労しました。苦手な生徒にわかりやすく、よくできる子も楽しめるような内容を毎回考えなければいけなかったのが、事前にネタをいくつか用意しておくと思いたくありませんでした。

最後に、教育実習を終えて行く前と変わったことは、教員になりたい気持ちが確実になったことです。実習前よりも教員になって生徒たちともっと授業や部活動などの学校生活を通して自分もさらに成長したいと思いました。教育実習は楽しいことだけではなく、苦しいことだけでもないです。自分自身の人生において貴重な経験になりました。

教育実習を終えて

史学科 4 回生

久 米 向日葵

私は、6 月 5 日から 6 月 21 日までの 3 週間、徳島県にある母校の公立高校で教育実習をさせていただきました。新型コロナウイルスによる規制の緩和により、少しずつ学校行事が通常に戻り、また県高校総体直後という忙しい時期に、実習生として受け入れ、ご指導いただいたことに感謝をしながら臨んだ実習期間でした。

教育実習中に 1 番困ったことは、実習で教える範囲が実習 2 日目まで分からなかったことです。実習開始 3 日前にあった事前打ち合わせと実習初日に、指導教官が担当されている部活動の大会があったため、直接お会いすることが出来ませんでした。そのため、実習 2 日目にやっと使用する教科書、実習範囲を知ることになりました。また、私が担当したのは高校 3 年生の日本史 A と日本史 B だったため、受験生に必要な知識をつけさせることと大学で学んだ ICT 活用や考えさせる授業を両立させた内容の授業を行うことになりました。事前に教材研究などを全く行えていない中、指導教官の授業を参考にしつつ授業を作るというのは、時間の足りなさや不安に押し潰されそうになる日々でした。しかし、実際の教育現場になるとこのような状況が当たり前になるということを実習中に学べたことは良い経験になったと思っています。

次は、教育実習で学んだことについて、特に印象に残っている 2 点をあげたいと思います。1 点目は、失敗を恐れないということです。実習で失敗したくないと思っている人が多いですが、私は教育実習はたくさん失敗して学ぶ機会であると思っています。私自身、実習中数え切れないほどの失敗をしました。このことから失敗を恐れて逃げるよりも、思い切って失敗し改善することが大切だと学びました。また、授業後すぐに指導教官に悪かったところや改善点を聞きに行くのではなく、まずは自分の中で整理してから指導教官とフィードバックを行うという指導をしていただいたことで、自分の問題点に気がつくことが出来ました。これからの人生においても大切な、失敗を恐れないという力を身につけることが出来ました。2 点目は、授業準備中に行う配慮についてです。現在の学校では、ICT の活用推進に伴い、ホワイトボードや投影機を使用する頻度が増えてきています。そこで、これからは色覚異常をもっている生徒や光を強く感じやすい生徒に配慮して、それらの機器を使用することが大切だということと同じ社会科の教諭に教わりました。それらの症状は、目には見えないので分かりにくいものですが、全ての生徒に平等に教育を行うためにもこれから考えていく必要があることだと思いました。

私は教育実習で授業方法や生徒指導以外にも、担任観や教育上でこれから配慮が求められることなどを幅広く学ぶことが出来ました。また、高校 3 年の進路に関する相談や学祭準備などを間近で見る経験もさせていただきました。教育実習で得た多くの学びを、これからの生活で活かしていきたいです。

教育実習を終えて

教育学科 3 回生

浄 西 莉 紗

私は、スクールサポーターで色々な子ども達と関わってきたので、子ども達と接することはある程度慣れているという自覚はありましたが、子ども達を相手にした授業をしたことがなかったので、大学で学んできたことをしっかり発揮できるのかという不安な気持ちもありました。しかし、4週間の教育実習は毎日がとても充実していて、あっという間に過ぎ、最終日に近づくにつれて、まだ子ども達と一緒にいたい、授業をしたいという気持ちになっていきました。4週間で様々な経験をし、多くの学びを得ましたが、教育実習を通して感じた2つのことについて述べたいと思います。

1つ目は、コミュニケーションの大切さです。私は実習が始まる前に名前を全員覚えていたり、子ども達の好きな音楽やアニメを勉強したりして、アニメキャラクターのイラストを毎日のように描いて持って行ったおかげなのか、多くの子ども達が遊びに誘ってくれたり、積極的に沢山話しかけてくれました。しかし、子ども達がみんな積極的かということそうではありません。あまり話さないような子は、漢字練習や日記に一人一言ずつでもコメントを書くようにしていたので、その過程で会話が弾むこともありました。コミュニケーションの方法は話すだけではなく、文面でもその子自身の特徴や思いを知る事はできます。授業中に発表ができなかった子でも、このように考えていたのだと気づくことも多かったです。コミュニケーションの手段は様々だと学びました。信頼関係を築く上でコミュニケーションは大切であると再確認できたので、子ども達の思いに耳を傾けられる教師でありたいです。

2つ目は、授業は児童の実態を踏まえて行うことが大切だということです。大学では義務教育コースに所属しており、外国語の模擬授業を多くしてきたこともあり、子ども達が英語を楽しんでいる教材を用意することは私にとって得意分野でした。しかし、英語の先生の授業見学をした際の様子や初回の外国語の授業の手応えから、子ども達は自信を持って英語を話せず、その原因として基礎の定着ができていないという状況が見受けられました。実習では、外国語の授業を計3回行いましたが、どのような姿を目指し、そのためにどのような目的を持って授業を行い、そのためには何が必要かを考えることを学びました。この実態を踏まえ、毎回の授業では、単語カードを使って何回も練習したり、リズムの良い動画を使って楽しく覚えられるようにしました。研究授業では、ワークシートに手書きのイラストを付けて、物の位置を訪ねてみようという主体的に活動できるアクティビティを取り入れました。回数を重ねるたびに児童の実態を踏まえた授業ができるようになり、児童の反応も積極的になり、自信を持って英語を話す姿が見られるようになりました。振り返りには、「前よりも多く単語を覚えられるようになった。」「歌だったから位置の名前を楽しく覚えられた。」と振り返りに書いてくれる子が多く

いて、やりがいを感じられました。授業の工夫に伴う子ども達のポジティブな反応は、授業作成の原動力となっていました。また、思うような反応が見られなかったとしても、それが自分自身の教え方を見つめ直す良い機会になりました。

4週間という短い期間でしたが、子ども達の成長はあらゆる場面で見られ、教師になったらその成長を間近で見られると思うと、教師はとてもやりがいのある仕事だなと感じています。子ども達から学ぶこともあり、一緒に成長できた教育実習となりました。子ども達や先生方への感謝の気持ちを忘れず、子ども達に寄り添い、子ども達と一緒に学び続けることのできる教師を目指して、これからも頑張っていこうと思います。

教育実習を終えて

教育学科 3 回生

高須賀 わかば

私は、母校の小学校で1か月間の教育実習をさせていただきました。大学の授業だけでは学ぶことができない多くのことを実際の学校現場で学ぶことができました。最初はとても不安でしんどい時もありましたが、子どもたちがたくさん声をかけてくれて、先生方も親身になって丁寧にご指導してくださり、毎日楽しく過ごすことができました。そして、この貴重な経験の中でも、最も印象に残った大きな学びがたくさんありました。

「一生懸命な姿を見せたら、必ず子どもたちは応えてくれる。」これは、教頭先生からのお言葉です。私は、授業実習に対して大きな不安を抱えたまま、全ての授業を完璧にしなければならぬという考えで失敗を恐れ、ある授業で子どもたちの反応が薄く、思い通りにいかなかった時がありました。何事に対しても子どもたちのために全力で取り組むことはもちろん大切なことですが、もっと子どもたちに頼って信頼してあげることとても大切なことだと感じました。時に教師が失敗することがあっても、その姿を見て間違っても大丈夫という安心感を子どもたちへもたらすことに繋がるということにも気付かされました。また、実習担当の先生からご指導いただき、私の克服課題としていた「発問の回数を増やす」「教師の言葉数を少なくする」ということは、教え方について想像していたことと大きく違っていた点でした。考え方やポイントをおさえようと子どもたちに完璧な回答を求め、自分自身で説明して終わらせてしまったことが多かったのですが、子どもたちが考えて発言した言葉をくみ取って授業を展開したり、教師が全て説明するのではなく、子どもたちに説明させたりすることが子ども主体的な授業づくりに繋がっていくということを学ぶことができました。教師も学習者として子どもたちと一緒に授業を作っていくような展開できるようにすることを目指していきたいです。

さらに、現在の教育現場では、一人一台タブレット端末を使用していたり、対話的な学びを中心としたペア・グループ活動を多く設けていたりなどと学習スタイルが大きく変化していることを間に当たりになりました。ICT のよさである教師にとっての授業の効率化や、子どもたちの多様性を育成することができることから便利さを実感しつつも、使い方にはまだ慣れていないため、情報機器についても詳しく知らなければならない必要性を痛感しました。

子どもたちの柔軟な発想力や想像力の豊かさを通して、一つ一つの授業内容を教材研究しているうちに様々な考え方や指導の仕方があることに気付かされました。担当クラスの子供たちと交わした約束「先生になって戻ってくる」。私はこの教育実習を終えて「地元に戻って先生になる」という強い意志に変わりました。教師の道を選択して本当に良かったと思い、指導に携わってくださった先生方、支えてくれた実習生の仲間、子どもたちへの感謝の気持ちを忘れず、立派な教師になることを目指して、これからも学び続けていきたいと思います。

教育実習を終えて

教育学科 3 回生

竹 市 美 月

母校の小学校で過ごした4週間は、1日1日があっという間でとても充実した教育実習になりました。教育実習に行くまでは、本当に自分が子どもたち相手に教えることができるのか、実習を無事に終わられるのか、とても不安でした。授業準備だけでなく担任業務など大変なこともありましたが、それ以上に教師という仕事をより身近に感じ、実習に行く前よりも「教師になりたい」という気持ちが強くなりました。

私は、4年生のクラスの子どもたちと一緒に過ごさせていただきました。最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、いざ教室に入ってみると、元気いっぱいの子どもたちがたくさん話しかけてくれ、休み時間も外で遊んだり教室でゲームをしたり話したりしてすぐに打ち解けることができました。

実習が始まり、2週目から実際に授業をさせていただきました。私は研究授業を算数でさせていただく予定だったため、算数を中心に計11回授業を行いました。その中でただ教科書の通りに授業を進めるのではなく、子どもたちが学習への意欲をもって授業を受けることができるような導入の工夫や授業の準備の大切さを実感しました。今思えば、授業準備をしっかりと授業に臨み導入が上手くいくと、子どもたちも食いつきがよく楽しんで活発に授業に参加してくれていたし、授業をしている私も楽しんで授業をすることができていたと思います。

実習期間中は学校行事がいくつかあり、実習が始まり3週目には運動会がありました。運動会本番まで子どもたちと一緒に練習に参加させていただき、日に日に踊りが上手くなって上達している子どもたちの姿を見て本番では子どもたちの力に感動しました。運動会までの先生方の準備も一緒に手伝わせていただいて、子どもたちが帰宅してからの会場設営も片付けも大変でしたが、子どもたちの本番でのカッコいい頑張っている姿を見ることができて、準備も練習も頑張って良かったと思いました。運動会の練習と並行して音楽会の練習も始まりました。歌や合奏の練習のお手伝いをさせていただきました。全体練習を見ることなく実習が終わってしまったのですが、本番を見せていただいて子どもたちの歌声や演奏にとっても心を打たれました。授業だけではなく学校行事も通して、一緒に子どもたちと何かを作り上げることで達成感を得ることができ、子どもたちの日々成長する姿を見ることができるのは教師の魅力だなと改めて感じました。

こうして貴重な経験ができたのも、子どもたちから「わかりやすいし楽しい授業だった」「先生が担任してほしい」「先生授業頑張ってるね」などたくさんうれしい言葉や、周りの先生方の優しく心強い支えがあったからです。この実習を通して得たこと学んだことを活かして、今後も教師になるという夢に向かって頑張っていきたいと思います。

教育実習を終えて

教育学科 3 回生

松 山 奈那美

私は教育実習が始まるまでは、本当に児童の前で授業ができるのか、実習先の児童や先生方と良い関係を築けるのか、などとても不安でした。しかし、実習が始まると、児童と沢山関わることができ、授業をさせていただくたびに先生方にもアドバイスを頂き、とても充実した 4 週間を過ごすことができました。その中でも特に印象に残った出来事が 2 つあります。

1 つ目は、児童の成長の早さを感じたことです。私の実習校では、実習期間中に音楽会の練習をしていました。実習 1 週目の音楽の時間では、楽譜を読むことに困っていたり、自分が今どこを演奏しているのかわからなくなったりしている児童が沢山いました。私は困っている児童の補助に入って、鍵盤を指で一緒に押さえたり、リズムをとったりしながら一緒に練習に参加していました。すると、前回の練習の時間では弾けなかった部分が次の練習の時間では弾けるようになっていたり、間違えていたリズムを正しいリズムに直せたりしている児童が何人もいました。たった数回練習しただけでもすぐに弾けるようになる児童の成長の早さにとても驚きました。また、一緒に練習を重ねるうちに児童から「先生、ここできるようになったよ!」「もう楽譜見なくても弾けるようになったよ!」という言葉をよく聞くようになり、常に児童の成長を感じることができました。

2 つ目は、校長先生から「教師の仕事に終わりはない。」という言葉を受けたことです。教師の仕事は児童のことを考えれば考えるほどたくさん出てきて、終わりのない仕事だということを教えて頂きました。教育実習に行くまでは教師の仕事について、あまり細かいところまではイメージが付きませんでした。しかし、実際に実習校で先生方が仕事をされている様子を見ると、放課後に授業の準備をしたり、校内研修会の振り返りをしたりして、常に授業を向上させるための仕事をされていました。また、実習期間中には創立 150 周年記念式典があったため、1 週間前から校舎の隅々まで先生方が掃除されていたり、式場の細かな配置を確認したりしている姿も見ました。先生方が仕事をされている姿を見て、確かに教師の仕事には終わりがないと感じましたが、その分どの先生方も児童と関わる時にはとても充実した顔をされていたように感じ、とても印象に残りました。

教育実習を通して、大学の授業だけでは学ぶことのできない児童の様子や先生方の仕事を間近で見ることができ、とても貴重な経験をさせて頂くことができました。私は教育実習に行くまで教師という職業に対して不安を感じるものがたくさんありましたが、教育実習を終えて「やっぱり教師になりたい。」という気持ちがとても強くなりました。今回改めて感じたこの気持ちを胸に、教師になるために努力していきたいです。

教育実習を終えて

教育学科 4 回生

七 瀬 知絵子

私は母校の中学校で 2 週間の教育実習をさせていただきました。2 週間という短い期間でしたが、指導教員や実習仲間の支えもあり、無事に終えることができました。今回の実習で学んだことは大きく分けて 2 つあります。

1 つ目は、授業を計画する際に「何を学ばせるのか」「どんな活動をすれば身につくことができるのか」を入念に考えることです。生徒の立場で授業を考えることで、丁寧な指導ができることを学びました。プリント一枚を作成する上でも、基本問題から応用問題に変化させ、図形を使って説明を加えるなど工夫する必要があります。指導する側の思いを込めて授業を作ることが大事だということを感じました。プリントやパワーポイントの作成にはとても苦労しましたが、授業を行った後に生徒から「先生の説明とても分かりやすかったよ」と伝えてくれたときは、思わず涙がこぼれそうになるほど嬉しかったです。授業では、声の大きさや説明するときの言葉、間の取り方を学びました。初めは上手く説明することが出来ずに想定よりも遅いペースで進めてしまうなど、授業を円滑に進めることの難しさを痛感しました。上手くいかない原因を考えて、次の授業では改善するように努めることで、最後の授業では自信をもって取り組むことができました。生徒たちが積極的に質問し、楽しそうに授業に参加している姿を見たときに教師のやりがいを感じました。

2 つ目は、学級づくりにおいて「掃除と ST（朝と帰りのクラスの時間）で学級ができる」ということです。掃除の時間では責任をもって行うように指導することによって、自分で考えて行動できる生徒が育つことを学びました。ST の時間では「こんな学級にしたい」という担任の思いをしっかりと伝えることで、学級全体が同じ方向に進んでいくことが大事だと思いました。実際に私も ST の時間をいただき、一日の中でよかったことや反省点を伝えるようにしました。話す時の内容も具体的に生徒の立場に置き換えて話すように心がけると、いつもより真剣に話を聞きいている姿が多く見られました。実習の最後に生徒たちから貰った寄せ書きに「ST の話はとてもためになるものばかりでした」と書いてくれた生徒が何人もいて、自分の思いがしっかり伝わっていて嬉しかったです。授業の時間がほとんどで、学級で過ごす時間が限られているからこそ、ST の時間は大事にする必要があると改めて感じることができました。

今回の実習では、教師の仕事の本質とやりがいを学びました。自分の未熟さに憤りを感じ、課題に直面することも多々ありましたが、実習を通して大きく成長することができたと思います。今回の実習で得た知識や経験は、一生忘れることのない大切な財産です。これから先、実習よりも忙しい教員生活が待っていると思いますが、学んだことをしっかりと胸に刻んで頑張っていきたいです。

幼稚園教育実習を終えて

教育学科 4 回生

畑 えりか

私は、大学の附属幼稚園で 1 年間教育実習をさせていただきました。感染症拡大防止のため、実習生はマスクを着用したり健康観察表を提出したりと、感染対策が十分に行われた中、幼稚園教育実習が始まりました。

実習初日は、各クラス 5～6 名の実習生が入らせていただくことに心強さを感じていましたが、子どもたちは複数人もの実習生と仲良く関わってくれるのか、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、子どもたちが嬉しそうにたくさん話しかけてくれたり、一緒に遊ぼうと誘ってくれたりしたため、不安な気持ちはなくなり、毎回園に行くことが楽しみになりました。幼稚園教育実習では、子どもたちの成長を長い期間見届けることができるため、園に行くたび、子どもの成長のスピードに驚かされていました。以前までできなかったことができるようになった子どもの姿を見て感動したり、母親のように応援したり見守ったりなど、実習を通して子どものことがますます好きになりました。

実習中、先生の子どもに対する関わり方や保育活動から学ぶことがたくさんあり、保育の素晴らしさを身に染みて感じました。子どもたちが安心して楽しく園生活を送れるように、子どもと同じ目線で話したり、子どもの些細な言葉にも耳を傾けたりして、コミュニケーションを図っていくことが大切だと気付きました。また、実習では部分保育や全日保育もさせていただき、歌唱指導や製作など今まで経験したことのないものにも挑戦する良い機会になりました。製作活動をした際、私は子どもの行動を予測しきれず上手くいかないことばかりでしたが、失敗したことで気付いたことや学びもたくさんありました。子どもたちが自由に発想をめぐらせ、オリジナルの作品を作ることができるよう、様々な色の画用紙を用意することや、この材料を使うと楽しくなるだろうと、子どもの視点になって考え、保育していくことが大切だと学びました。

1 年間の幼稚園教育実習を通して、辛いことや悔しいこともたくさんありましたが、大学の授業では学ぶことのできない貴重な経験ができました。忙しい中、私たち実習生を温かく受け入れてくださり、丁寧なご指導とご助言をくださった先生方、困った時に親身に相談に乗ってくださった大学の先生、辛い時に支え合い励まし合った実習生の仲間には、心から感謝しています。保育者として働いた際は、この経験で学んだことや気付いたこと、感じたことなどを忘れず、残りわずかな時間を大切にして、日々努力していきたいと思います。1 年間本当にありがとうございました。

幼稚園教育実習を終えて

教育学科 4 回生

田 川 真由佳

私は、大学の附属幼稚園で年間を通じた幼稚園実習をさせていただきました。3 歳児クラスを担当させていただき、入園してきたばかりの 4 月から音楽で遊ぼうに向けて練習をする 11 月までの子どもの成長する姿や、保育者や子どもの行事に向けて取り組む姿を、年間を通じた実習であったからこそ学ぶことができました。

多くのことを学ばせていただいた実習でしたが、その中でも私は活動の流れの大切さを学びました。どんぐりマラカスを作る部分実習をした際に、まずどんぐりを子どもが触れるようにしてから手遊び、絵本の読み聞かせ、どんぐりマラカス作り、どんぐりマラカスを鳴らすといった流れで保育をしました。ですが、最初にどんぐりに触る機会を作ってしまったため、子どもを中々集めることができなかつたり、手遊びへの活動の展開に時間がかかつたりしてしまいました。また、どんぐりマラカス作りでは、子どもが前に来て好きな容器を選んでから座ったことを確認して説明をし、容器に絵を描いてまたもう 1 度前に来てどんぐりを容器の中に入れ実習生にテープで止めてもらうといった流れで保育をしました。ですが、子どもにとっては前に 2 回も行ったり、説明の内容を忘れてしまっていたり、実習生にテープを貼ってもらう待ち時間があつたりなど、活動の流れが途切れてしまう場面が多くできてしまいました。このことから、担任の先生からは、「立ったり座ったりが繰り返されると子どもは集中や興味が途切れてしまうから、子どもの動きを想定した上で保育を行うべき」ということと「3 歳は 1 度に説明をされると最初に言われたことは忘れてしまうから、説明をしたらそのまま行動をし、できたことを確認してからまた説明をするなど、その都度説明を行う必要がある」と教えていただきました。この部分保育から、保育を考える際にはまずは子ども視点になって、子どもの動きを考え、どうすれば待ち時間を作らず、スムーズに活動が進められるか活動の順番もしっかり考える必要があると学ぶことができました。

そして、1 年間子どもたちの園生活を送る姿、様々な行事に取り組む姿、成長する姿など、たくさんの姿を間近に感じることができました。また、年間を通じた実習であったからこそ様々な行事のための準備や毎日の保育の準備など、保育者が子どもと関わる以外の仕事の大変さも学ぶことができました。

子どもからも保育者の方からも学ばせていただいたたくさんのことを、4 月から実際に私が保育者となった時に活かし「園に行きたい!」と思ってもらえるような日々の保育や子どもとの関わりをしていきたいと思います。そして、手遊びや製作、運動遊びなどの知識を増やし引き出しの多い保育者になりたいと思います。

幼稚園教育実習を終えて

教育学科 4 回生

稲岡 真由

私は母園である兵庫県の私立の幼稚園の3歳児クラスで、2週間幼稚園教育実習をさせていただきました。温かい先生方と元気な子どもたちに囲まれての実習は、2週間とは思えないほど内容が濃いものでした。実習が始まるまでは、先生方や子どもたちと良い関係を築くことができるのか、適切な保育を行うことができるのか、とても不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、始まってみると子どもたちが本当に可愛くて、毎日が楽しく学びのある時間でした。その中でも、特に印象に残った出来事が2つあります。

1つ目は、日々の保育です。今回の実習では観察が主だったため、客観的に子どもたちの様子や保育者の援助、声掛けを学ばせていただくことができました。毎日子どもたちの興味・関心に即した保育が展開されており、子どもたちの意欲が湧くように日頃から先生方が工夫されていることが分かりました。例を挙げると、日頃から一人一人の子どもたちと多く関わる時間をつくることで、興味・関心を探ったり、季節に応じた活動を行ったりしていました。また、そのことによって、保育に対して子どもたちが生き生きと活動に参加している姿がとても印象的でした。

2つ目は、運動会です。実習生として役割を与えていただいたのですが、先生方の事前の準備の素晴らしさにとても驚きました。大玉転がしの玉の色と折り返し地点の旗の色を揃えることで視覚的な支援をすること、子どもたちの動線を考えた環境構成を行うこと、子どもたちのやる気を引き出す声掛けなど、本当にたくさんの配慮のあり方を学ばせていただきました。そのことによって、子どもたちは自分たちが次に何をしたらいいのかを考えて行動することができおり、事前の準備や環境構成の大切さに改めて気付くことができました。

幼稚園教育実習を終えて、子どもたちとの関わり方、保育の1日の流れ、行事の際の支援の行い方など様々なことを学ばせていただきました。子どもたちと2週間一緒に過ごす中で、子どもたちにしかない感性に触れ、私たち大人の感性とは大きく異なっていることに気付くことができました。そのことによって、私が今まで気付くことができなかった新たな発見が多くあり、子どもたちからたくさんのことを学ぶことができました。また、日常の保育の中や行事、園生活を通して、子どもたちが日々成長している姿を見ることができました。

春からは小学校教諭として働くことになりますが、幼稚園の現場で学ばせていただいたことを忘れずに、感謝の気持ちを持ち続けて、精進していきたいと思います。素敵な出会いとともに、たくさんの経験をさせていただき、とても充実した2週間でした。実習を受け入れてくださった園の先生方に本当に感謝しています。ありがとうございました。

教育実習を終えて

家政学科 4 回生

穴 見 花 菜

私は母校で5月下旬より3週間、教育実習をさせていただきました。今後の自分における教師としての基本を教えていただいた期間となりました。小中高と通った母校での実習は安心感もありましたが、初めて生徒たちの前で授業をすることは不安でもありました。そのような私の不安を察してか、指導教官の先生をはじめ、すべての先生方に親身になって見守っていただけたことは本当に感謝しております。

先生は生徒一人一人の状況を把握して、全ての生徒が安心して授業を行なうことを心掛けなければならないことを知りました。授業を行なう上で先生からご指導いただき、心に残っている言葉は「物語を話すように授業をする」ということでした。はじめは正直、理解できなかったのですが、授業見学をしていくうちに少し理解することができました。50分の授業で導入からまとめまでを分かりやすく説明する、そのためには生徒たちが聞き取りやすく、興味を持ち、時には質問をすることで考えさせることが大事であると認識しました。私がそれを実践できたとは思えませんが、授業の基本を学ぶことが出来ました。

私の教科は家庭科なので座学だけではなく、調理実習・裁縫実習は家庭科の授業として必須です。これらは、基本的には見学もしくは補助とゆう形での参加でした。授業中に気づいたことは指導、説明を行いながら先生はすべての生徒に目を配らせていることでした。調理や裁縫はアクティブで楽しいことです。しかし危険も伴います。調理には包丁を使用し、ミシンには針が付いています。ケガをさせることなく、安全に授業を遂行することがいかに大切で難しいことかを勉強させていただきました。

3週間の実習期間、私はできる限り生徒と一緒にいることを心掛けました。実習授業の準備、指導内容をまとめているとき以外は、担当の教室にいたように思います。少しでも生徒と打ち解けたかったからです。昼休みには一緒に体育館で遊んだりもしました。また、放課後は一緒に掃除もしました。私はみんなとする放課後の掃除が好きでしたので、この学校の生徒だった頃のことを思い出し、懐かしくなりました。生徒たちは少しずつ心を開いてくれ、色々なことを聞いてくれたり話してくれました。私が本校生だったころの思い出や大学のことなど。実習最終日の挨拶をするときには、生徒たちが本当に大事な存在になりました。

教育実習の3週間は、私にとって長くて短い期間でした。悩んだり、落ち込んだりしたこともありましたが、先生方、学校関係者の方々、そして生徒たちに助けられ、充実した時間を過ごすことが出来ました。教育実習で学んだことを4月からの中学校教師生活に活かしていきたいと思います。

栄養教育実習を終えて

管理栄養士養成課程 4 回生

安 井 心 海

私は母校である高知県の小学校で1週間、栄養教育実習をさせていただきました。栄養教諭はクラスを持つこともなければ1日中授業をするわけでもありません。全ての学校に置かれているわけでもないため、自分の母校に栄養教諭がいなかったりどんな仕事をしているのかイメージが湧かないことが多いのも現実です。しかし私はこの1週間の実習を通して栄養教諭の先生がどのような役割を果たし、子どもたちにとってどれほど重要な存在かを知ることができました。そして、子どもたちと関わる中での教師の在り方を明確にすることができました。

教育実習において最も印象的だったのは、子どもたちに教えるということがこんなにも楽しく、やりがいのある仕事だということです。給食指導や授業の指導案作成はとても時間がかかり、実習開始前はこれで良いのだろうか、自分にできるのだろうかという不安しかありませんでした。しかし私の想像以上に子どもたちは積極的で「初めて知った!」「もっと詳しく教えて!」などと言ってくれました。リアルな反応がすぐに返ってくるのがとても新鮮で、授業をすることがこんなに楽しいのだと初めて感じました。子どもたちの前に立ち何度も指導を重ねていく中で2つの気付きがありました。それは「指導案通りにはいかないこと」と「授業に完成は無いこと」です。一方のクラスで上手く教えることが出来ても、もう一方のクラスでは思うようにいかないこともあったため、授業をするクラスにどんな教え方が合っているのかを判断し柔軟に対応する必要があると感じました。私は1回目の授業の後に栄養教諭の先生からアドバイスをいただき、修正して2回目の授業に挑んだのですが、それでもまだ「ここを修正したい」「この部分を深掘りしたい」というアイデアがたくさん浮かびました。これから経験を積んで、より良い授業を作ることができるように努力していきたいと強く思いました。

栄養教育実習はわずか1週間という非常に短い期間でしたが、人生で最も充実し貴重な経験をさせていただくことができた、私にとってかけがえのない時間となりました。10年ぶりの母校に教育実習生として帰ることができ、とても嬉しかったです。指導してくださった栄養教諭の先生は、どの学年からも話しかけられるほど子どもたちから信頼されており、子どもたちについても深く理解されていました。担任を持つことが無い栄養教諭は自分から積極的に話しかけたり、授業を通して働きかけることで子どもたちとの関係を築くことが出来ると考えています。私も教え方はもちろん子どもたちとの接し方も、指導してくださった栄養教諭の先生をお手本にさせていただきたいと思っています。「次は同僚として会おうね」という栄養教諭の先生からいただいた言葉と「絶対高知に戻ってきて先生になってね」と言ってくれた子どもたちの言葉を胸に、日々精進していく所存です。

教育実習を終えて

健康スポーツ栄養学科 4 回生

畑 村 真 咲

「めっちゃかっこよかったで！」「次みんなで頑張ろう！」の言葉とともに沸き起こった拍手が、この実習期間で一番印象に残っていることであり、教師を目指そうと改めて強く感じさせてくれました。

私は地元である姫路市の中学校で、3 週間お世話になりました。実習期間中に体育発表会があるというタイミングでの実習でした。体育発表会ではとてもキラキラした顔の生徒たちを見ることができて、本当に恵まれた実習になったなと思います。体育発表会当日、私は担当していた 1 年 1 組の応援席の後ろに座り、生徒たちの様子を見守っていました。その中でクラス選抜のリレー競技があり、1 年 1 組からも足の速い順に数名が出場しました。生徒たちもとても楽しみにしていた競技だったようで、応援席は「頑張れ！！」「絶対勝てるで！！」と応援の声飛び交っていました。しかし結果は 5 クラス中 4 位でありよい結果ではありませんでした。しかし、出場した生徒たちが帰ってくるとクラスの全員が拍手で迎え入れ「めっちゃかっこよかったで！」と声をかけていました。さらに「次の競技もみんなで頑張ろう」と前向きな声もたくさん飛び交っていました。1 年 1 組はとても元気のよい子たちばかりで、授業も前向きに取り組む生徒たちばかりですが、誰かの失敗があると笑ったりからかったり、時には心無い言葉が出てしまうことが課題だと、担任の先生から聞いていました。そんなクラスから、とても温かい拍手が起こったという成長が、本当に本当にうれしく、心が温かくなりました。多忙でブラックだといわれる教師という職業ですが、こんなにも素敵な場面に出会えることができるのだと思い、教師になろうと改めて強く思うことができました。

実習期間の 3 週間、毎日が新しいことばかりで、やるべきことも多く大変なこともありましたが、しかし、毎朝教室に行き生徒たちの顔をみると嘘みたいに疲れが吹き飛び、今日も頑張ろうという気持ちになれました。生徒たちからもらえるパワーは想像以上に大きなものでした。教師は生徒に様々なものを与えることが仕事だと思っていましたが、生徒たちから受け取るものも多く、しっかりと受け取ることも仕事の 1 つだということを学びました。そして受け取ったものを自らの学びとし、日々成長していく必要があると感じました。

不安いっぱいだった教育実習でしたが、本当に楽しく実りある 3 週間になりました。来年からは実習生ではなく“先生”として生徒の前に立つものとして、この実習で学んだことを活かし、日々成長し、自分の目指す教師像に向かって頑張っていきたいと思います。

養護実習を終えて

看護学科 4 回生

杉 本 黎 佳

小学校での養護実習を通して、常日頃からのコミュニケーションの重要性に関することやアセスメント能力の必要性など多くのことを学ばせていただくことができました。

保健室には毎日多くの児童が来室していました。けがの手当てや病状の回復を求めて来室する児童もいれば保健室登校の児童などそれぞれの悩みを抱えて来室する児童の姿を見ることができました。養護教諭と1対1の空間になると児童は病状だけでなく自分の気持ちを吐露する様子が多々ありました。児童が誰にも言えていなかった悩みをクラス担任のように毎日関わっているわけではない養護教諭に言えることはなぜだろうと考えたときに3つの理由を挙げることができました。1つ目は日々の養護教諭から児童への関わりにより信頼関係が構築されているということです。養護教諭は校内で出会う児童に挨拶や会話を交わし、欠席届を持ってくる児童に対して自ら受け取りに行き「ありがとう。お疲れ様。」「いってらっしゃい。がんばってね。」などと言葉をかけていました。保健室内だけではなく日頃からコミュニケーションをとることで児童にとっては“この先生は自分に興味を抱いてくれている”と感ずることができおり、この関わりが「何かあったときは頼りにできる先生」と思ってもらえる1歩であることに気付くことができました。2つ目の理由は環境です。保健室には折り紙や可愛い手描きのイラストなど雰囲気が明るくなるものをたくさん掲示していました。それらの掲示物は養護教諭が制作したものではなく、休憩しに来た児童や保健室登校児童などが作ったものでした。自分が作ったものが掲示されていることは児童にとって保健室が見知らぬ場所ではなくなり、安心する1つの材料になるのではないかと学ぶことができました。このように誰も拒まない安心できる環境づくりに励むことも保健室経営の1つであると考えられました。3つ目は養護教諭が行う保健教育の授業です。私は4年生の集団指導で『目に優しい生活の仕方を考えよう』の学級活動（保健の指導）の授業を2回行いました。45分という時間管理もとても難しかったです。児童の反応に合わせて内容を深掘する難しさを特に感じました。授業後に、児童からの問いかけや会話が增え、そこから児童の個別指導につなげていくことができました。このように集団指導を行うことによって児童と養護教諭の関係を築くきっかけにもなるという貴重な体験をすることができました。

また、保健室に来室した児童の対応では、日常的な会話から行うアセスメント能力の必要性を痛感しました。同じ「しんどい」という発言でも聞いてみると症状はそれぞれ異なり、私が問診すると質疑応答のような圧迫感を感じさせるような対話になってしまいました。どのようなリスクがあるか考えなければいけないという固定概念に私自身が囚われており、緊張が児童に伝わってしまっていたと思います。ですが養護教諭が行う児童への問診を聞いているとただ

の世間話かのように思えるが、聞かなければならない情報収集はちゃんと聴いておりその中でアセスメントされていることを知りました。自分が養護教諭になった時には児童にとって話しやすい安心できる存在になりたいと思いました。

今回の養護実習で得た学びは来春から養護教諭として働くにあたって活かしていきたいと思いました。

幼稚園教育実習を終えて

幼児教育学科 2 回生

横 田 ふう加

私は 6 月に地元の認定こども園で、3 週間の幼稚園実習をさせていただきました。認定こども園での実習ということで、1 歳児から 5 歳児までを順番に観察し、関わったことで、子どもの成長過程や保育者の関わり方、活動の違い、また、どのクラスにおいても共通する部分などを実際に見て、学ぶことが出来ました。

実習初日は未満児クラスに入らせていただきました。なかなか上手く声をかけられなかったり、関わりが難しかったりと、自分の中でたくさんの反省点がありました。しかし、保育者がどのような遊びや活動を提供し、その中でどのように声をかけ援助しているのかをじっくりと観察することで、次の日から自分自身の実習に繋げるようにしました。子どもたちと積極的に関わり、伝えたいことや思いを汲み取って、子どもたちの気持ちを受けとめられるように努めました。

子どもの遊びや生活ということでは、それぞれのクラスで保育者が絵本の読み聞かせをしている様子を見たり、実習生として絵本の読み聞かせや手遊びをしたりすることで、そのクラスの子どもが今楽しんでいる遊びを知ったり、子どもの反応、声のかけ方、読み方やスピードの違い、同じ手遊びでも年齢によって楽しみ方が変わってくることなどを学ぶことが出来ました。

4 歳児クラスに入った時に研究保育をさせていただき、手遊び、絵本の読み聞かせ、製作活動を実際に子どもの前で行い、保育者からのアドバイスをいただきました。手遊びや絵本の読み聞かせの際に子どもが活動しやすく、興味を持てるような様々な工夫、関わり方や、製作活動においての手順、子どもが自分で考えて楽しめるようなひと工夫など、これからの保育の実践に活かせる学びをたくさんさせていただきました。

日々の園での保育に加えて、親子ウォークラリーにも参加させていただき、普段は見られない親子の関わりや園外保育の際に保育者が気を配る点や役割を学ぶ貴重な経験ができました。全体での誘導の難しさや説明の際に言葉足らずな部分があったり、周りや状況を見て動き、活動をスムーズに行ったりすることが出来ていなかったことを感じ、今後園外保育の際に、保育者として気を付けることや役割も明確になりました。

3 週間という短い期間でしたが、学校では学ぶことの出来ない子どもたちとの関わりや保育など貴重な経験ができ、また様々なアドバイスや指導によって、この実習が自分の大きな力となりました。そして、今回実習させていただいた中で、保育者の子どもへの関わり方や保育方針も納得できるこの園で働きたいと強く感じ、4 月からこの実習園で働くことになりました。実習での出会いと幼稚園実習を受け入れて下さったことに感謝し、現場に出てからも実習での経験を活かして頑張ります。

学校ボランティア活動を終えて

教育学科 2 回生

神 代 陽 菜

スクールサポーターとして学校現場に携わらせていただくようになってから 1 年程が経ちました。主に、なかよし学級の 1 年生から 6 年生までの幅広い学年の子供たちを支援する活動をしています。個々の苦手なことを把握して寄り添う中で、困難を乗り越えていく子供の姿を間近で見られるという貴重な経験をさせていただいています。1 人ひとりとの関わりが密接になるので、子供たちの言葉や気持ちについて考え、成長や変化に感動することが多くありました。音楽会では、任された太鼓の演奏を大成功し浮かべた笑顔、お昼休みには、運動場から私を見つけ「先生！」と大きな声と満面の笑みで手を振ってくれる姿、秋見つけでは、銀杏の葉で作ったバラに目を輝かせる姿など、子供たちの生き生きした姿は私の心を温かくし、教師になりたいという気持ちをさらに強くさせてくれました。

しかし、楽しいことばかりに目を向けていてはなりません。なかよし学級の子供の 1 時間の学習を 1 人でサポートに入った際は、1 人ひとりの特性や個性、背景に応じてどこまで指導し、どこから支援をするのかと悩み、もどかしさを感じる時もありました。そのような時に、はっと気づかされる出来事がありました。それは、5 年生の図工の授業前のことでした。なかなかクラスになじめず、図工室にも行きたくない様子なので私はその子供と教室で待機していました。すると、クラスの子供が教室まで迎えに来て、そっと手をつないで「迎えに来たよ！一緒に行こう！」と声をかけてくれ、図工室の前まで行くことが出来たのです。その後、図工室前の廊下で私が気持ちを落ち着かせていると「今日はどうする？これだったら出来そう？今日楽しそうやな！」などと声かけをしてくれました。その際、自分のペースを大事にしてくれる友達に安心した表情を浮かべる姿が見られました。教師として私から声をかけることも安心出来る環境づくりとして大切ですが、クラスの友達が自分のことを大切にしてくれていると思えることは、それにまさる大きな安心であり、心の支えになるということに気づかされました。そして、子供同士の自然な優しさや愛の溢れた行動や言葉かけ、お互いを尊重し合う姿から子供たちの中で小さな社会が形成されることを学びました。そのような言葉かけや行動が生まれる環境があるのは、子供たちの力だけでなく、担任の先生の温かく愛のある指導、言葉かけや 1 人ひとりのクラスでの居場所を大切にする姿勢が背景にあるからこそだと思います。常に気かけ、変化や成長をほめ、いけないことは指導する—クラスは小さな社会であるからこそ、教師がそれぞれの個性を認め合い、配慮や思いやりの心を大切にしている姿が児童の人格を形成していくと感じました。このような何気ない毎日の積み重ねが学級の色を作り、明日も来たいと思える笑顔と希望で溢れた学級作りにつながることを改めて実感し、大切さを学びました。そのような学級を作れるよう、日々このボランティア活動で実践的に学び続けていきたいです。

学校ボランティア活動を終えて

教育学科 3 回生

加 藤 朱 莉

スクールサポーターとしての活動を始めてから、約1年半が経ちました。私は2回生で1校、3回生で1校と2つの小学校で活動させていただいたのですが、どちらの小学校にも素晴らしい特色があり、学級や児童の雰囲気も全く違うため、幅広い学びを得ることができたと思います。同じ学校で長く活動した人にしか得ることのできない学びがあれば、さまざまな学校で多くの児童と関わった人にしか得ることのできない学びもあると思います。スクールサポーターの活動は、自分がどのような支援をしてどのような学びを得たいのか考えるきっかけになり、非常に貴重な経験になりました。

1校目では、主に特別支援学級で活動させていただきました。初めての活動ということで、児童がどのような支援を必要としているのか、どこまで支援をするべきか、なぜその児童にその支援が必要であるかなど、分からないことばかりでした。しかし、先生方の動きを見て自分が何をすべきか考えたり、その支援をする理由を教えてもらったりしたことにより、多様な支援方法を少しずつ学ぶことができたと思います。児童のことを第一に考え、真摯に向き合い、児童の心に温かく寄り添う先生方の姿を見て、自分も児童のことを第一に考えて行動できる教師になりたいと強く思いました。

2校目では、主に通常学級で活動させていただきました。1・4・5・6年生が1学級、2・3年生が2学級と1校目に比べて児童数が少なかったこともあり、一人ひとりの児童と深く関わることができました。通常学級で活動させていただいて学んだことは、担任の先生が毎日何を意識して児童と関わっているかということです。ある先生が「1日の中で学級の児童全員と必ず会話を交わすようにしている」と仰っていて、それがどれだけ児童の心の支えになっているかを知ることができました。この言葉をお聞きして、自分は挨拶のみである場合が多く、内容のある会話ができていない児童は少ないということに気付きました。最近では教科担任制を取り入れている科目もあるため、自分の学級の児童と1日中一緒にいることが少なくなってきました。そのため、児童と関わることができる時間を今よりももっと大切に、児童との心の距離を少しずつ縮めていくことを意識するようにしたいと思いました。

スクールサポーターの活動は、大学生の今しかできない非常に貴重な経験です。児童との関わり方、先生方の動き、多様な支援方法など、学校現場でしか得られない学びを今後の教員生活に活かしていけるよう、もっともっと積極的に活動していきたいです。スクールサポーターとして活動できるのは残り1年ですが、自分が何を学びたいのか、児童とどのように関わりたいのかなど、自分に必要な学びを考えながら活動したいと思います。そして、児童との貴重な時間を大切に、活動を心から楽しみたいです。

学校ボランティア活動を終えて

英語英米文学科 2 回生

近 藤 音 花

私は、スクールサポーターとして特別支援学校に行かせていただきました。その学校には、幼小学部・中学部・高等部があり、視覚に障害のある幼児・児童・生徒がいます。私は主に、小学部の英語と高等部の英語と自立活動の授業に入らせていただいていたいました。小学部の英語では、一緒に歌やチャンツを覚えたり、簡単な表現を使って会話の練習をしたり、ライティングの指導補助を行いました。高等部の英語では、單元ごとの会話文や文章について話したり、文法を使った文を作ったり、分からない問題等の指導補助を行いました。自立活動では、一緒に目標を設定し、作業や食育、歩行訓練をしました。

私が授業を観察・補助する上で、気づいたことは、先生方は一人一人の児童生徒をよく見ているという点です。一人一人のニーズに合わせた指導や配慮はもちろん、児童生徒の体調や環境にも気を配りながら授業を進めていました。自立活動の時間には、重複の生徒に対して、教師と一緒に前回の振り返りや反省を行うことで、生徒自身が毎回具体的な目標設定ができるように手助けしていました。例えば、白杖を使った歩行訓練を活動内容としている生徒の場合、教師が「足の感覚だけで点字ブロックを判断するのではなく、白杖から点字ブロックを感じ取って歩けるようになってきたね。でも歩いていると左に逸れてしまうことが多いよね。」などと前回達成できたことを褒めつつ、反省を指摘する。すると生徒は「次はまっすぐ歩けるようになりたい」と新たな目標を見つけることができる。児童・生徒の興味関心を引き出すことや意欲を維持させる言葉がけが重要であるとわかりました。

また授業内では、教師が一方的に授業を進めるのではなく、児童生徒に考える時間を与え、積極的にコミュニケーションを取らせる工夫がされていました。分からない所を生徒間で教え合い解決させたり、発表や意見交換を行ったり、主体的に取り組む力を向上させていました。

私が少し難しいと感じたことは全盲の児童生徒とのコミュニケーションの取り方です。初めは、いきなり挨拶をして驚かれないかな、会話の中での反応はどうしたら良いのかなど困惑していました。しかし他の先生の関わる姿を見たり、児童生徒と親しくなるにつれてどのように接すれば良いのかわかるようになりました。全盲の児童生徒と関わる上で意識したことは、移動している時ではなく止まっている時に話しかけること、自分のいる位置を知らせること、会話での相槌を声に出すことです。全盲の児童生徒に関わらず、児童生徒が安心して快適に過ごせるよう配慮することは大切だと感じました。

この活動を通して、児童生徒が目標に向かい努力する姿を見て、私自身学ぶことが多くありました。教師になったら、児童生徒の声に全て対応することは難しいかもしれないけれど、深く寄り添える教師を目指したいと思います。

幼稚園ボランティア活動を終えて

教育学科 3 回生

小深田 結 香

私は神戸市の幼稚園で幼稚園学生ボランティアをさせていただきました。初めは学校インターンシップⅢで行かせていただき、その後は学生ボランティアとして1年間を通して行かせていただきました。このように長期間に渡って教育現場で学ぶことができたことは私にとって本当に貴重な経験となりました。

主に5歳児のクラスに入らせていただきました。教師と幼児の関わりを見たり、自分が経験したりした中で学んだことは、幼児一人一人の個性を知り、その幼児に適した援助を考えることです。活動中に思うようにいかず、気持ちが落ち込んでいる幼児がいた際に、私は一緒に気持ちを切り替えられるように声掛けをしていました。しかし、その幼児にとっては、1人になる時間があることで気持ちが切り替えられるようになることを知り、幼児に適した援助を行うことの難しさを感じました。日々の生活の関わりから、その幼児がどのような性格なのか考えることや、行動の背景を考えながら援助をすることが教師には求められると感じました。

園では様々な活動がありましたが、中でも身体表現が印象に残っています。遠足や探検の時に様々な生き物を見て幼児が感じたことを体で表現する活動でした。つばめの身体表現では、親子や兄弟になりきったり、「お腹がすいた」のようなつばめの気持ちを表現したりなどしていました。幼児の想像力は豊かで、同じものを見ても注目する部分や感じることは異なるのだと感じました。他の幼児が気づいたことを共有することや良さに気づくことに繋がる活動だと学びました。また、教師には幼児の想像力を引き出すような言葉がけや、幼児が表現したことを受け止める援助、さらに日頃の遊びに繋げていけるような援助が大切だと感じました。

また、1年間で運動会や音楽会、様々な季節の行事があり、幼児が本番に向けて一生懸命取り組んでいる姿や、楽しそうに活動している姿が印象に残っています。ずっと練習していたことができるようになった時には見せに来てくれる幼児もあり、一緒に喜ぶことができた際には非常に嬉しい気持ちになりました。ボランティアに行かせていただく中で幼児がいない間にも様々な準備や環境整備があり、大変な部分もあると感じました。しかし、教師という仕事は、日々少しずつ成長していく幼児を見守り、その成長と一緒に喜ぶことができる素敵な仕事であると改めて感じることができ、夢を実現したいという思いが強くなりました。

最後に、ボランティアをさせていただく中で、私の力不足な部分はたくさんありましたが、幼児と関わることで多くのことを学ぶことができました。また、お忙しい中、多くのアドバイスをしてくださった先生方、関わってくださったすべての方々に感謝を申し上げます。学んだことを忘れることなく、今後活かしていきたいと思います。